

# 日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

## 名古屋ボストン美術館の設立

名古屋ボストン美術館長 小倉忠夫

名古屋ボストン美術館が平成11年(1999年)の春、名古屋市中区の金山総合駅のすぐ近くに開館することになっています。

昨年11月末に、この美術館の運営財団として名古屋国際芸術文化財団(Foundation for the Arts, Nagoya/略称FAN)が設立されると共に、3年あまり先の開館を控えて、名古屋ボストン美術館(Nagoya/Boston Museum of Fine Arts)も組織として設立されました。

日本ボストン会の皆様方に、この美術館の概要についてお知らせできますことを、私共は大変嬉しく存じております。

まず当館の基本的な特色としては、米国ボストン美術館と姉妹館の関係にあること、そしてボストン美術館の優れた大規模なコレクションの専用展示館であること、この二つが挙げられます。ボストン美術館は世界で有数の総合的美術館として知られ、地域的には殆どの主要文化圏の美術を網羅するとともに、時代的には約5500年にわたる美術史をカバーしています。

このような「百科辞典」的な基本的特色の他に、エジプト美術、印象派などの19世紀フランス絵画、海外では最も優れた日本美術、東洋美術などのコレクションが有名であります。また、明治初期からのモース、フェノロサ、ビゲローほかのボストン人士

と日本との深い交流、ならびに岡倉天心、富田幸次郎とボストン美術館との長年にわたる関係などが想起されます。

もちろんボストンから名古屋へ送られる展覧会は、コレクションの全部門から構成され、20年の間に次々と開催されます。このプロジェクトは一応20年間の契約を結んでおり、展覧会の形式は常設展と企画展の二種類となっており、両者が並行して開催されます。常設展は5年間の長期展示ですが、ギャラリーの一部に日本コーナーを設け、時おり展示替えをします。企画展は年2回開催の予定です。

この2種類のギャラリー(展示室)の広さは、合わせて約1400㎡でいどの規模となっています。

開催年の展覧会のテーマは次の通りです。

企画展

第1回(平成11年春～)

<モネ、ルノワールと印象派の風景>

第2回(平成11年秋～)

<岡倉天心とボストン美術館>

常設展

第1期(平成11年～平成15年)

<古代地中海世界の美術>

以上簡単ですが、名古屋の財界、名古屋市、愛知県の三者協力のもとに推進される、名古屋ボストン美術館プロジェクトの概要です。(了)

## 日本ボストン会イベント

第2回	ハイキング	高尾山・小仏峠	96年4月20日(土)
第3回	ゴルフ	富士平原ゴルフクラブ	96年5月18日(土)
第4回	講演と音楽の夕べ	アンダンティノ	96年6月21日(金)
第3回	ハイキング	尾瀬ヶ原	96年6月29・30日(土・日)
	歴史研究会/歴史を飲もう会		96年7月13日(土)(予定)
第5回	総会		96年10月25日(金)(予定)

(別項関連記事参照)

## ボストン ツアー報告

土居嘉子

当間きよみ

空港から海底トンネルをぬけると目の前にダウンタウンのビル群、そのビルの合い間、夜空にくっきりとカーブを画いて三日月が輝いていたのが印象的でした。その三日月ははまるで宙吊りされ、誰かにあやつられているかのごとく。やがて車がメモリアル・ドライブに下りて行くと、チャールズリバーの向こうの広い西の空に落ち着き我々は懐かしのボストン第一夜の宿ハイヤット・ホテルに着きました。

当初から、プランニングにお世話いただいたボストン日本人会前会長吉野先生ご夫妻と現会長石川定先生ご夫妻のお出迎えをいただき恐縮いたしました。我々一行にとりましては大変ありがたく、今回の旅が終始楽しく笑いの渦と感激の連続だったことを思い出しますと、両ご夫妻のご支援によるものと改めて御礼申し上げたいと思います。

### 日本語学校オフィス訪問

9月29日の午前アーリントンにある懐かしのオフィスを訪ねました。吉野前会長夫人がご一緒して下さい、立川校長先生、福德PTA会長にお会いしました。

皆様から頂いたボストン日本語学校20周年寄付の1110ドルと50万円をお渡ししました。いつもボストン会の連絡でお世話になっている秘書の古居さんに初めてお会いし、記念誌委員長の広瀬さんに再会し、事務の佐野さんの手作りケーキを頂きながら、現在の日本語学校のお話を聞きました。1995年9月現在、生徒数522人で半数以上が小学生、3割以上が幼稚園生でした。

一つ気になったお話は、阪神大震災の直後、「何かをしましょう」と行動を起こされたのはメドフォードの先生方で、そのあとをついていったのが日本人だったそうです。メドフォードの先生方を毎年日本にご招待するプログラムの効果を喜んでよいのか、行動を起こしにくい我々日本人を嘆いてよいのか、ということを感じました。

日本語学校に対するその後のご寄付は、12月にしてお渡ししました。合計で115件、1110ドルと63万7千円になりました。

ご寄付を受付ける銀行口座はまだ残してあります。引き続きよろしくお願ひいたします。(土居)

### ニューイングランドの紅葉を再び

10月1日、吉野先生ご夫妻のお迎えで紅葉狩りの旅へ出発。日曜日の朝だからと空港まで行ってレンタカーという念の入れようで頭が下がります。12人乗りバンでRt. 2を西へ西へ。ご存知のモホークトレイルを進みます。

はじめ緑の中に真っ赤が点在する美しさに歓声を上げていたおばさん達も次第におしゃべりに熱が入ります。この旅行で知り合った方々もお互いの気心も知れて、車中は笑いの渦！川沿いの道をのぼりつめるとWitcomb Summit。展望台からの眺めは錦織のカーペットと言った感じ。快晴に恵まれあたり一帯の紅葉も見頃でした。ウィリアムズタウンへ下り、Clark Art Institute(会報第4号参照)へ。白い大理石の美しい美術館で、ルノアールの少女達との再会です。私もボストン滞在中春夏秋冬と季節を変えて幾度か訪ねた所です。折りしも、裏庭は色とりどりの落ち葉、木陰のベンチで一休みのひと時も忘れ得ぬ思い出となるでしょう。Rt. 7を北上、グリーンマウンテン・エリアはのどかな田園風景と美しい紅葉のトンネル、Rt. 89を更に北上してストウへの道に入る頃には夕日が沈み、薄暗くなった頃、モーターに着きました。

その夜のディナーはトラップファミリーロッジのレストラン。ハーブの生演奏、オーストリア風料理にデザート、民族衣装のボーイさん、異国ムードたっぷりの雰囲気、酔ったのはおいしいワインのせいばかりではなさそうです。

翌朝の又素晴らしいこと！冷気の中でひときわ色鮮やかな紅葉。まさに“息をのむ美しさ”とはこのことでしょう。とにかく、ヴァーモントの紅葉の最高の時期に、はるばる日本から訪ねることが出来たのも、天の恵みと人の縁のおかげと感激をあらたにしています。

### ”Wentworth By The Sea”

「ゆかりのホテル残したい」と一昨年会報第2号で取り上げられ、総会でも資金カンパをお願いしていました。

私達はポーツマス郊外ニューキャッスル島にあるそのホテルの前まで行ってきました。静かな入江に面し、ナールヤードを背に建っています。美しい

(次ページに続く)

## ボストン ツアー報告(続き)

前庭には、色どり良く花が植えられあずま家も、そして入江にそってゴルフ場につながっている様子です。とにかく素晴らしいロケーションです。

残念ながら、フェンスで囲まれ建物の中には入れませんでした。終日光る海を眺めて過ごすもよし、ヨットで海に出てもよし。もう少し日本に近かったら、リゾート・ホテルとして放って置かないだろうに・・・という気がしました。

我々のホンのささやかなカンパが屋根の補修に役立ったのか、どうか?.....ところどころ赤いきれいな瓦に張り替えられた跡が見られたことをご報告したいと思います。

## 日本人会婦人部との交流

最後の晩は、ボストン在住の方々によるポトラック・パーティ。私たち一行8名を含めると30名余と盛会でした。

お赤飯、おすし、ストウで採ったきのこのソテー、パスタ、サラダetc... ケーキに和菓子と心のこもった手作りの品々に懐かしい顔・顔。婦人部との交流をとお願いはしてありましたものの、こんなに多数の方々が集まって下さってとうれしうございました。

会長ご夫妻はもとより、副会長田中夫人、役員の方々の吉野ご夫妻、鍵山夫人、ウエンデルさん、会場を提供して下さった吉野屋の古川さん、コンサートでお馴染みジャズピアニストの竹中真さんもお仕事の合間をぬって来て下さいました。

役員の方々の統率力もさることながら、現地日本人会の方々のボランティア精神旺盛なこととその行動力に感心し、「日本でのんびり暮らしているプラス・マイナス」と外国生活の緊張感など思い起こして胸をつかれる思いにさせられました。

我々ボストン会の企画を立てても集まる顔はいつも同じ.....と不安で萎えて行く心を奮い立たせ、「継続は力なり」となるよう努力を続けて行きたいと思えます。

最後にお世話になった皆様、快く送り出して下さった家族の方々ありがとうございました。

(当間)

第一回ハイキング  
「鎌倉を歩く会」に参加して

松本信二

昨年の暮れのある日、日本ボストン会の会報を見ていると、1月14日に実施する鎌倉ハイキングの案内が目につき、参加してみようかという気になった。鎌倉ならばわが家から30分程で行けるし、出不精の妻も一緒に行ってみようかというので、早速、幹事の土居さんに申し込んだ。土居さんとはこれまでに全く面識がなかったが、Eメールを一・二度やりとりし、無事に仲間に入れてもらうことになった。

当日は天気も良く温暖なハイキング日和であったが、若干不安があった。どういう方々が何人位参加するのか全く情報がなく、北鎌倉の駅に集合するといっても、すぐ仲間を見つけだせるのであろうか。ハイキングの最終目標地は関場邸であったが、関場さんという方はいったいどういう方なのか。

集合時間である午前11時の少し前に北鎌倉の駅の改札口を出ると、何人もの人達が待ち合わせしているが、どのグループに声をかければいいのかさっぱりわからない。きょろきょろ見渡していると、やっと知った顔を見つけることができた。藤盛さんご夫妻が駅前広場に面した喫茶店の中からこちらを向いて手を振っているのである。藤盛さんご夫妻は大分早く来てしまったので、喫茶店でお茶を飲んでいたのだそうだ。藤盛さんが参加することを初めから知っていれば別に心配することはなかった。

少し遅れて来た人もいるが、総勢13人が間もなく集まり、早速スタートすることになった。最年少は金子さんのお嬢さんで、確か4才、最年長は60才以上。男性と女性はほぼ同数。なかなかユニークなグループになった。

北鎌倉駅から鎌倉方面に少し進み、左手の浄智寺のところから入り、葛原岡神社の横を抜けて、源氏山公園にでる。そこで小休止をし、簡単な昼食をとる。昼食の後、近くの銭洗弁天へちょっと寄り道をしようということになり、坂道を少し下り、洞窟の中へ入って行った。ここで銭を洗うと何倍にもなって返ってくるというので、この日も多くの観光客が訪れていた。私達のグループの中にも、1万円札を一所懸命洗っている人がいたそうである。

銭洗弁天を後にして、裏大仏ハイキングコースを

(次ページに続く)



## 日本ボストン会1995年度総会

日時: 1995年11月2日(木)午後6時

場所: NEC三田ハウス 芝倶楽部

出席者: 井口代表幹事夫妻他41名

議事: 活動報告・ボストン訪問報告・会計報告  
・監査報告

会則一部変更: 特別会員の開設

懇親会:

独唱: 黒川泰子さんオーシャンゼリゼ他4曲

新会員紹介: 望月前総領事夫人他9人

ウエントワース・ホテル支援募金募集

## 幹事会記録報告

\*1995年12月3日(日)出席者13名

次回のコンサート打合(96年6月21日)

次回ゴルフ開催打合(96年5月予定)

派遣教員ホームステイの受入(事前予告のお願い)

会計担当の変更: 藤盛紀明・富美子さんから

棚橋征一さんへ引継報告

\*1996年2月27日(火)出席者17人

6月21日コンサート打合

日本ボストン会CUG/パソコン通信意見交換

第5回総会開催予定日(10月25日)

「鎌倉を歩く会」(続き)

通り、大仏様の裏手に出る。ここで江ノ電に乗って最終目標地に先回りする人とさらに1時間弱歩く人に別れることになっていた。歩く自信のない人は電車で行くということであった。若干躊躇した人もいたが、最終的には、全員が歩いて行くことになり、また元気に歩きだした。

鎌倉山のあたりでは時々富士山もみることができ気持ちの良いハイキングであった。途中で棟方版画美術館に立ち寄り、予定の時間より少し早く関場邸に到着した。とにかく、全員が最終目標地に無事到着し、めでたし、めでたし。

関場さんには初めてお会いしたのであるが、外務省で激務をこなしながら、主婦業もこなしておられるとのこと。そんな超多忙な方が、随分沢山の料理を用意して下さい、恐縮してしまいました。お酒をいただいたり美味しい料理をつまみながら、話がはずんだ。ボストンの話、政治の話。インターネットの話。等々。とにかく楽しい一日であった。幹事の土居さん、お世話になった関場さんに心から感謝したいと思います。

## X線による新たな発見

Van Gogh Museum,  
Amsterdam

美術同好会

X線検査の結果、ゴッホの光をテーマにした初期の作品130点の内、3点は下地にimpast(重々しい暗い色でぬりつぶす)が表れた。しかし、17作品はそれら(impast)と全然異にし、下地にもう一つの絵が描かれていた。又、それらの中でも非常に珍しいのは下地に二つの絵が描かれていることである。その絵とは1985年(10月12日-12月8日)国立西洋美術館でのゴッホ展で展覧された「カフェ・ランブランに坐る女」である。

おそらく羽根で出来た変わった帽子をかぶった女がタンブリンの形をしたテーブルに両ひじをついている。女はコロージャロームのモデルをつとめていたイタリアの女である。この絵の下地からX線により二つの絵が発見された。

一番下の絵はしばしばゴッホが好んで描いたじゃがいもの入ったバスケット、羊飼いの、そして羊の群れである。

その上に描かれているのは、婦人の肖像画、それは明らかに他の画家の作品である。ゴッホミュージアムの学芸員が一番上の絵は彼自身のものと信じている。しかし、果してゴッホコレクションのカタログに残されるだろうか疑問である。(From International Art News)。

(追記)

横浜美術館での「ゴッホ展」を鑑賞された方のご感想をお聞かせ願えれば幸いです。

(酒井典子)

## ボストンの思い出

大島まり

どこに住みたいかと聞かれたら、私は迷わずボストンというであろう。ボストンは、私がMITの約3年間、原子力工業科の大学院生として青春の1ページを過ごした思い出深い街である。

たったの3年間であったが、その間様々なことを経験したとても内容の濃い3年間であった。小さい頃にアメリカに住んでいたというものの、成人してから海外に長期間一人で住むのは初めてのことであったので、最初の頃は見るもの聞くもの全てが新鮮であった。また、アメリカの大学は日本の大学のシステムと異なるため、慣れないことも多く、最初の頃は随分戸惑うことが多かった。

留学1年目は、話には聞いていたが授業のペースが早く、しかもホームワークにテストにと、追われるようにアツという間に去っていった。現在も学者として勉強を仕事としているが、今振り返ってみても、あのMIT留学の1年目ほど集中して勉強した時期はなかったのではないと思う。

2年目にはTA(Teaching Assistantships)、そして3年目にはRA(Research Assistantship)をMITからもらい、日本の大学では経験できない貴重な経験することもできた。TAは授業の補足的な手伝い、ホームワークの採点付け、補講をしたりする仕事であり、RAは先生の研究助手みたいなものである。仕事とみなされるため、授業料が免除され、また月々いくらかのお給料がMITから支給される。贅沢とは無縁で、日本のバブル経済をしり目に貧乏学生をしていたが、全く苦にならなかった。

特にTAでは、私のつたない英語で補習をしたり、宿題の採点をしたり、英語のハンディキャップのある私にとっては時間がかかなり大変だったが、その反面、世界各国から来ている大学院生と接することができ、とても楽しかった。日本人に期待するような遠慮というものがないため、皆わからないものは、はっきりわからないというし、採点では私のミスでなくても、納得のいくまで徹底的に議論するなど、アメリカ社会の側面を理解するための良い勉強となり、またかなり鍛えられたように思う。

2年目からは、精神的にも時間的にも余裕ができ、

週末あるいは長期の休みには、ボストン近郊などに気心知れた友人らとドライブに行ったりした。

私は、ニューイングランドの秋、特に紅葉の季節が好きである。私にとってボストンで恋しいものといったら、紅葉の季節である。日本の情緒豊かな紅葉とは趣が異なっていてアメリカらしいスケールの大きい紅葉の風景は未だ忘れることができない。澄みきった空を背景に木々の葉が鮮やかに色づいた大自然の中に身をおくと、自分もスケールの大きい人間になった気持ちにさせられる。

生まれも育ちもカリフォルニアの友達が、ボストンの冬は寒いし夏は暑いしで、卒業したら絶対カリフォルニアに帰るといっていた。カリフォルニアの真っ青に晴れ渡った空も捨てがたいが、四季のある日本で育った私は、やはり四季の変化のある東海岸の方が自分にあっているように思う。

帰国して5年になるためか、ボストンでの楽しい秋を過ごせるかと思えば、冬の厳しい寒さそして夏の蒸し暑さは多少我慢出来るような気がする。

卒業後、私の大学院時代の友人達は世界各国に散らばり、ボストンにとどまっている人は少数になってしまった。しかし、私同様、皆にとってもボストンは勉学だけでなく、色々な面でとても勉強になった良い思い出の場所のようである。機会があつて会うときには必ず話題にのぼる。そして、今はどうなっているのだろうか?ボストンに帰ってみたいなどと話がつきない。

私自身、3年間様々な事をやったように思うが、まだ行ったことのないところ、やり残したことなども沢山ある。次にいくときは、ボストンで色々お世話になった分、今度は日本とボストンの架け橋になって両方に貢献できればと思いつつ、機会があつたら、またボストンの紅葉を見に帰ってみたいと思うこの頃である。

(現在東京大学生産技術研究所助手)

## 第2回ハイキング お花見

行き先： 高尾山\_\_\_城山\_\_\_小仏峠

開催日： 1996年4月20日(土)

集合場所： 9:00 AM 京王線高尾山口駅(新宿から京王線特急44分)

持ち物： 弁当・飲み物

出欠： 4月18日(木)までに次にご連絡下さい

土居

コースタイム： 高尾山口駅\_\_\_高尾山頂\_\_\_城山\_\_\_小仏峠\_\_\_小仏バス停\_\_\_高尾山口駅  
徒歩 1:50 1:00 0:20 0:40 バス?  
ケーブルカー 0:30

## 第3回ハイキング 尾瀬

3回目のハイキングとして、ハイカーに人気の高い尾瀬に行くことにしました。今回は何度も尾瀬に行かれた中埜さんに企画をお願いし、ミズバショウのシーズンは余りにも混むので、それを避け、ワタスゲが咲く時期を選びました。詳細は下記の通りです。20名で山小屋の予約をしていますので、先着順で受付ます。参加ご希望の方は、早めにご連絡下さい。

スケジュール： 6月29日(土) 7:10 am 上野駅発 谷川1号(予定)  
鳩待峠から尾瀬ヶ原(約3時間)  
原ノ小屋泊  
6月30日(日) 尾瀬ヶ原から大清水(約5時間)  
7:30 pm 上野駅着 谷川8号(予定)

費用： 約¥25,000/人

連絡先： 土居

# 日本ボストン会

## － 第3回ゴルフ大会のご案内 －

会員の相互親睦のために第3回ゴルフ大会を下記の通り開催いたしますので、ご参加希望の方は至急お申込み下さい。

### 記

1. 日 時： 1996年5月18日(土)  
8:45 集合  
9:30 スタート(予定)
2. 場 所： 富士平原ゴルフクラブ  
㊤412 静岡県御殿場市水土野300-1  
Tel. 0550-89-2000  
(東名・御殿場ICより車で西北約15分程度)
3. 参加費用： 5,000円 (賞品+パーティ代)
4. プレイ費用： 29,400円程度
5. 参加人数： 5組20人(先着順)
6. 申込締切： 4月18日(木)  
(富士平原ゴルフクラブに1ヶ月前に参加者名簿を提出の要あるため)
7. 申込先： 日本ボストン会幹事又は荒金豊まで。
8. HDCP： ダブルペリエ方式
9. 表 彰： 優勝、2位、3位、4位、5位、7位、10位、ブービー  
ドラコン、ニアピン、各ホール、ベストグロス

参加申込みをされた方には後日、地図とコース案内を送付します。  
申込みをされてから、5/15以降にキャンセルされる方は一人当たり¥3,000の  
キャンセルーションチャージをお支払い頂くこととなりますので予めご了承下さい。

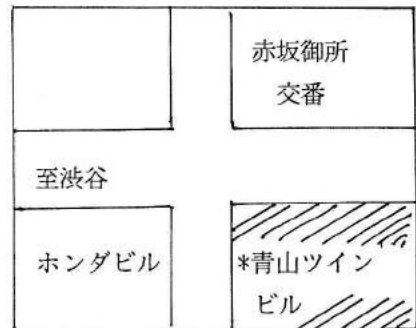
以 上

# 講演と音楽の夕べ

日時 平成8年(1996年)6月21日(金)

18:00開場 18時半開演

場所 コンサート・サロン  
「アンダンティーノ」  
☎03-3408-2006  
青山ツインビル 西館地上1階 \*  
(地下鉄銀座線/半蔵門線青山一丁目下車)  
青山一丁目交差点角 (地下有料駐車場有り)



講演 関場誓子先生 (聖心女子大学教授)

「日米関係とボストン」

ピアノ

建部佳世さん

仙台出身。桐朋学園高校・大学音楽科卒

西ベルリン芸術音楽大学留学

アメリカ各地にて音楽活動(Calif., Penn., Ind., Mass.)

現在宮崎に在住し音楽活動。

曲目

モーツァルト・ベートーベン他。

会費

お一人 8 千円  
(食事代込)

会費振込先

会場のスペースの関係もあり、予め葉書または電話で下記事務局宛お申込み下さい。

(葉書)

(電話)